

小学校5年・家庭 「整理・整とんマスターになろう！」



使用機器：1人1台端末、電子黒板 使用アプリ：プレゼンテーションソフト、カメラ機能

〈ICT活用のポイント〉

- ① 各自の考えを交流する場としてホワイトボードソフトを活用し、思考を可視化・記録する。
- ② 実践報告を行う際、プレゼンテーションソフトを活用してスライドを作成し、プレゼンテーションを行うことによって、情報活用の実践力の育成を図る。

1 題材の目標

気持ちよく生活するために、住まいの整理・整頓が必要であることが分かり、身の回りの整理・整頓の仕方を理解し、適切にできるようにするとともに、適切な住まい方についての課題を解決するために、整理・整頓の仕方を考え、工夫する力を養う。

2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・住まいの整理・整頓の仕方を理解しているとともに、適切にできる。 ・自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方について理解している。 	整理・整頓の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、整理・整頓の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

3 題材について

本題材は、1人1台端末を用いて自分自身の整理・整頓について課題を設定し、実践する学習である。今回使用した「Jamboard」はいわゆるデジタルホワイトボードの機能をもつソフトで、シートを複数人で共有することができ、同じシートを見ながらリアルタイムで付箋に意見を書き込むことができる。また、付箋の内容を整理することにより、思考を可視化・焦点化することもできる。コンピュータの専門的な知識や複雑な操作がなくても、1人1台端末上で自己の課題を発見することができ、その記録も容易に行うことができることから、様々な教科で活用することができる。

さらに、プレゼンテーションソフトを用いて、各自のお道具箱の整理・整頓前後の写真を貼り付け比較できるようにし、課題と計画、振り返りについて各自のスライドをもとに発表できるようにする。児童が前後の様子を撮影しておくことにより、知的好奇心が喚起され、意欲的な取組につながれるようにすることがねらいである。ホワイトボードソフトと同様に、複数人で共有することができるため、お互いの実践の様子を自分の端末でじっくりと比較しながら見ることで、各自の課題解決に向けて思考するツールとして活用することができる。

4 指導と評価の計画（全4時間）

時間	学習内容	評価の観点			指導上の留意点 【評価方法】
		知識・ 技能	思考・判 断・表現	態度	
1	<ul style="list-style-type: none"> ○「整理」「整頓」とは何かを知り、なぜ整理・整頓が必要なのか考え、班で話し合う。 ○学校内の整理・整頓の様子を調べる。（整理・整頓ウォッチング） 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末を活用し、学校内の物品のしまい方の様子の写真から、整理・整頓の様子を調べ考える。 【ホワイトボード】【ワークシート】
2	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のお道具箱の整理・整頓に関する課題を考える。 ○整理・整頓のポイントについて知り、必要な物と必要でない物の区別をして撮影する。 ○課題を踏まえてお道具箱の整理・整頓の計画（お道具箱スッキリ計画）を立てる。 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・写真の比較や課題設定、計画立てをしながらいを作成させる。 ・整理整頓のポイントの資料を提示し視覚的に理解できるようにする。 【スライド】【ワークシート】
3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○お道具箱の整理・整頓を行う。 ・学習したポイント及び各自が考えた計画を用いてお道具箱の整理・整頓を行う。 ○整理・整頓後の写真を撮り、実践の工夫についてまとめ、発表に向けてスライドを完成する。 ○班ごとにスライドを基に発表し合い、友達の工夫を知る。 ・発表後、再度お道具箱とスライドの見直しをし、改善する。 	◎	◎		<ul style="list-style-type: none"> ・整理・整頓前後の写真を1人1台端末で撮影させ、比較しながら振り返ることができるようにする。 ・スライドを共有することで、友達の工夫を知ることができるようにする。 【観察】【スライド】【ワークシート】
4	<ul style="list-style-type: none"> ○前時に作成したスライドを基に各自の実践を全体で発表する。 ○使いやすい状態を維持するための工夫を考える。（お道具箱いつでもスッキリ作戦） ○これまでの学習を生かして、家庭での実践計画を立てる。 	○	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・整理の時に撮影した写真を用いて考えさせる。 ・「整理・整頓マスター」になれたかチェック項目を用意し、自己評価できるようにする。 【観察】【スライド】【ワークシート】

5 ICTの効果的な活用について

本題材では1人1台端末のホワイトボードソフト、プレゼンテーションソフト、カメラ機能等を活用し、整理・整頓に関する各自の考えの交流や整理・整頓の前後の比較を通して、家庭での実践に生かす学習を行った。ホワイトボードソフトを用いた活動では、クラスでシートを共有して、各シート上で付箋に考えを書き込むことで、他者の考えを同時に知り、活発な交流を行うことができた。思考が可視化され、各自の考えを深めることにも有効であった。

また、プレゼンテーションソフトを用いた活動では、教師作成の元のスライドに流れを示しておき、それを学習支援ソフトで配付して各自コピーを作成させたことで、全ての児童が同じ流れ(①整理・整頓前の写真②課題③整理の様子写真④計画⑤整理・整頓前後の比較写真⑥工夫したところ)のスライドを作成することが可能となった。考えを記入する箇所や、写真の挿入、デザインなどは各自で作成させたため、流れは統一であるが内容は個性の出るものとなり、思考や表現の幅に広がりのあるスラ

イドを作成することができた。また、各自のスライドをもとに実践報告を行ったことで、情報活用の実践力の育成にもつながった。

今回、各家庭での実践については、ワークシートにまとめさせたが、将来的に1人1台端末を家庭に持ち帰ることが可能になれば、その実践を写真に撮ってまとめ、実践内容や思考を互いに共有できることが期待できる。今後も、積極的なICT活用を通して、深い学びにつなげていきたい。



資料①（児童作成のスライドの画面）

②自分のお道具箱の課題

- ・物が取り出しづらい。
- ・見た目が悪い。
- ・いらぬものが入っている。
- ・きたない。
- ・どこに何があるのかわからない。

③計画



- 1, 必要なものと必要でないものに分ける。
- 2, よく使うものは、手前にする。
- 3, 物がどこにあるかわかるように置く。
- 4, 仕切りを使って、同じ分類で分ける。
- 5, ハサミは奥で、はの向きは奥側にする。

⑤整理・整とん前後を比べて



⑤整理・整とん前後を比べて



⑤整理・整とん前後を比べて



⑥工夫したところ

- ・あまり使わない物を奥に入れた。
- ・はさみなどは持ち手を自分の方へ向けるようにした。
- ・見た目をきれいにさせるようにした。
- ・よく使うものは手前に入れた。
- ・取りやすいようにした。

